

礼文の森から

宗谷森林管理署
礼文森林事務所



レプンアツモリソウの研究報告



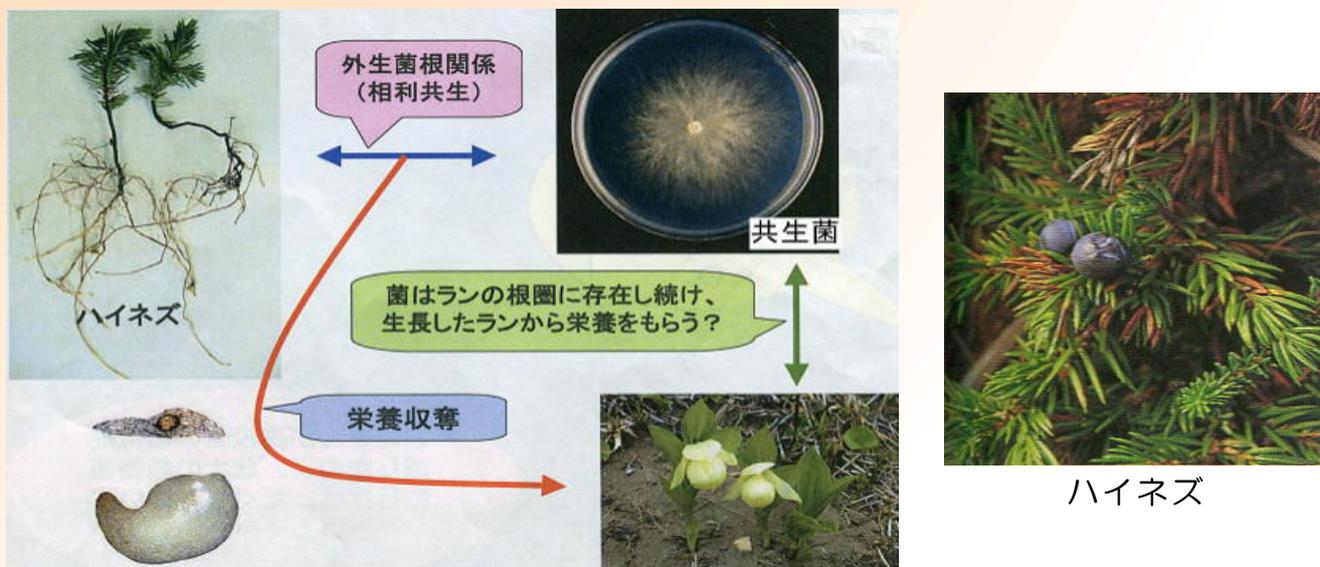
礼文島にしか自生していないレプンアツモリソウは、島民の皆様の財産です。

過去に盗掘されるなど、その数は徐々に減ってきています。このような状況が長く続くと、絶滅につながってしまうかもしれません。そうならないようにレプンアツモリソウの生態を調べ、ひいては増殖方法を見つけるために研究をしてきている方達があります。その中から分かってきたことを紹介していきたいと思います。

レプンアツモリソウの復元候補地に共生菌（植物に寄生して植物の生長を助けるカビやキノコの仲間）が存在しない場合、種子は発芽できません。そこで、候補地に種子をまき、その発芽率を調べることにより、共生菌の分布を探りました。

6年間にわたり、発芽率を調べたところ、以下のようなことが分かりました。

- 1、レプンアツモリソウ親個体の周辺には共生菌は存在しないこと
- 2、共生菌発芽は必ずハイネズの周辺で見られ、レプンアツモリソウが発芽するのに必要な共生菌の1つは、ハイネズの根に共生している菌であった



レプンアツモリソウが発芽するために必要な共生菌が、ハイネズと一緒に暮らしていることが判明したため、**レプンアツモリソウを保護するためには、ハイネズも一緒に保護していかななくてはなりません。**いきものは色々なつながりをもって生活しています。レプンアツモリソウを含め、高山植物を盗掘してはいけないのはもちろんですが、どんな植物でも大事に、益々の自然環境保護の取り組みにご協力をお願いします。

(資料提供) 北海道大学名誉教授 幸田泰則氏